

心も潤う街 ～雨の日を楽しみな日に～

1. はじめに

福岡市の年間降水日数 119^日あり、一年間の 3 分の 1 は雨の日といってもよい。雨の日は、普段の晴れの日と違い、濡れて気分が落ち込みがちになる人や、気圧の変化によって体調がすぐれない人々もいる。つまり、雨の日は人々を憂鬱にさせる出来事であると考えられる。

近年、このように煩わしく感じる雨の日を、楽しもうとする動きが活発にみられる。たとえば、女性を対象にした雨の日を楽しむレイングッズが発売され、人気を博している。デザイン性の高いレインシューズや長靴、デコレーションができる傘などが、それにあたる。雨の日だからできるファッションは、雨の日を日常とは離れた非日常と捉えなおし、「雨の日」を楽しむための新たな価値づけを行っていると考えられる。

そこで、雨の日を楽しむための手段として、人々の服装だけでなく、街全体において演出を行うことで、雨の日の億劫さをなくすことができ、「雨の日」だからこそ楽しめる街をつくれるのではないかと考える。

2. 雨の日の街の演出

2-1. ビルの外壁や道路から、イラストが浮かび上がる演出

雨の日の通勤、通学時には傘を差し、水たまりを避けようとうつむきがちに歩く人々を多く見かける。うつむきがちに歩くことで、より雨の日が億劫になり、気分が滅入ってくるのではないかと考える。そこで、うつむきがちな通勤、通学から人々が顔をあげて通行できるような仕掛けを提案したい。

あらかじめ、ビルの外壁や歩道に撥水効果のある塗料の吹付けを行い、撥水によってイラストを表現し、人々の視線を下から上に集めたい。



図 1 ビルの壁面に浮かび上がるイラスト（イメージ）

2-2. 広場などに降水を利用したメロディーが流れる仕掛けの設置

JR 博多駅前の広場には、雨の日にバス待ちの人が多くいる。バスを待つひと時に、雨にまつわるメロディーを流すことで、雨の日の楽しみが増えると考え。雨量計に降水量 1mm～2mmの雨が、たまるとメロディーや音楽が鳴る仕掛け。10～15分間に一度の間隔でメロディーが流れる。

雨の日に関わる曲

歌手名	曲名
作詞：北原白秋、作曲：中山晋平	あめふり（あめあめふれふれ）
Eric Clapton	Somewhere Over The Rainbow
前川清	長崎は今日も雨だった
ゆず	雨のち晴レルヤ
YUI	Rain
Dreams Come True	晴れたらいいね
ポルノグラフィティ	サボテン

3. おわりに

雨の日の演出は、雨の日にしかできないファッションや街の演出によって、雨の日は楽しいことが起きる日として、新たな価値づけができる考える。この提案は、「まちを楽しくする、まちを元気にする、ひとに驚きを与える、ひとを感動させる」をコンセプトにした「夢 アイディア」に当てはまるものである。

また、雨の日の演出は、経済的な効果も見込まれるのではないだろうか。雨の日は、雨を嫌って外出する人が減少し、消費活動も落ち込む。雨の日が楽しい街にすれば、雨の日だからこそ、外出したくなる。これは、雨の日を楽しむ新たな観光として、経済的な側面にも貢献できると考えられる。

i 「都道府県データランキング」 http://uub.jp/pdr/g/w_9.html 2016/9/15 閲覧。